

機械器具 51 医療用尿管及び体液誘導管
一般医療機器 輸液用延長チューブ 12170001

エクステンションチューブ (STPBEX : PVCフリー)

再使用禁止

【警告】

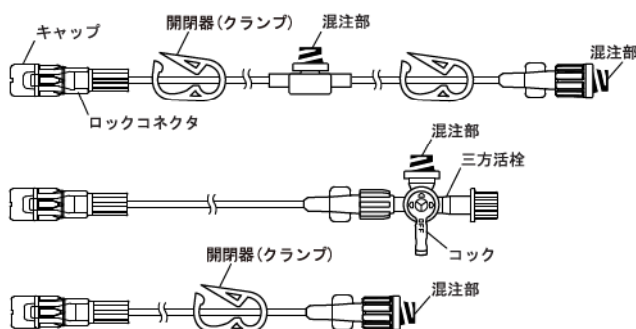
- 混注部は、混注前に消毒用アルコール綿等で消毒すること。
[細菌が混入するおそれがある。]
- 本品の混注部からヘパリンロック等を行って輸液を中断する場合は、本品と血管内留置カテーテル等の間の開閉器(クランプ)等を閉じるか、三方活栓付の場合はコックを操作して混注部方向をOFFにしてからシリンジ等を外すこと。また、ヘパリンロック等を行っている間は、閉じた開閉器(クランプ)又はコックを操作しないこと。[血管内留置カテーテル等に血液が逆流し、カテーテル内が閉塞するおそれがある。]

【禁忌・禁止】

- 再使用禁止
- 注射針を用いて混注等しないこと。[混注部が破損し、液漏れ及び汚染されるおそれがある。]
- 血管造影等の高圧注入には使用しないこと。[破損するおそれがある。]

【形状・構造及び原理等】

<構造図（代表図：品種により構成部品が異なる場合がある）>



- ・本品のチューブにはポリブタジエンを使用している。
- ・本品のコネクタにはポリカーボネートを使用している。

【使用目的、効能又は効果】

輸液などのラインを延長するために用いるチューブである。

【品目仕様等】

1. 気密性
本品の先端を閉じたのち、20～30℃の水に入れ、片方の先端から内圧20kPaで10秒間空気を送り込むとき、空気の漏れがない。
2. 雄嵌合部、混注部、継ぎ管及び導管の接続部
各接続部は10N以上の引張強度を15秒かけるとき、緩まない。ただし、脱着使用する部品との嵌合部は除く。

【操作方法又は使用方法等】

1. 本体を包装から取り出します。
2. 輸液セット等、ルアーテーパコネクタを有する他の医療機器に接続します。
3. 使用後は感染防止に留意し、安全な方法で廃棄してください。

<薬液等の混注を行う場合>

1. 混注部を消毒剤で消毒します。
2. オスルアーテーパを有するシリンジ又は輸液セット等のオスコネクタを、混注部に接続します。ルアーロックタイプの場合は、回転が止まるまでねじ込み固定します。
3. 薬液等の混注を行います。
4. 混注終了後は、本品を保持しながら、シリンジ又は輸液セット等を外します。

<三方活栓付の場合>

三方活栓は、コックの上部「OFF」の位置が閉路で↑の位置が開路となります。コックの位置を回転することにより、流路が切り替わります。

<使用方法に関連する使用上の注意>

1. 接続部及び混注部には直接手を触れないでください。
2. 三方活栓のコックを必要以上に回転させないでください。
[破損するおそれがあります。]
3. テーパ部に薬液等が付着した状態で他のコネクタ等を接続しないでください。[接続部の緩み等が発生するおそれがあります。]
4. 混注部はオスルアーテーパのコネクタ又はシリンジ接続専用です。注射針やその他のコネクタは使用しないでください。
[混注部の破損、液漏れ及び外れのおそれがあります。]
5. 持続注入を行う場合はロック式のコネクタで確実に固定してから使用してください。[持続注入中にコネクタが外れるおそれがあります。]
6. 混注部にコネクタを接続後、横方向に過度の負荷を加えないでください。[混注部が破損するおそれがあります。]
7. 接続の際は、混注部に対して垂直にゆっくり差し込むように接続してください。[斜めに接続した場合、混注部(ディスク弁)の破損、外れのおそれがあります。]
8. 混注部(ディスク弁)に亀裂、外れ及び陥没等の異常が認められる場合は直ちに新しい製品に交換してください。
9. 混注部への輸液セット等の脱着時にはディスク弁の外れ、陥没等の異常がないことを確認してください。[液漏れ、閉塞及び感染等が発生するおそれがあります。]
10. 混注の操作終了後に輸液セット等の接続を外す際は、本品を確実に手で固定し、他の接続部が緩まないよう注意して外してください。
11. 混注部は鉗子等で叩かないでください。[混注部が破損するおそれがあります。]
12. 混注部からシリンジでワンショット注入を行う場合は、ゆっくりと注入してください。[チューブ内の圧力が上昇し、各部の接続部の破損、液漏れが発生するおそれがあります。]
13. 混注部の消毒剤にはポビドンヨードを使用せず、アルコール綿等を使用してください。[混注部が着色及び膨潤するおそれがあります。]
14. 混注操作を繰り返しているうちに混注部に緩みや液漏れ等が発生した場合、新しい製品に交換してください。
15. 混注部から薬液を混注する場合は、空気の混入に注意し、必要に応じて混注部のエア抜きを行ってください。
16. 混注する場合は、混注する薬液を考慮し、必要な場合はフラッシュを行うなどの適切な方法で行ってください。[混注薬液の一部が滞留し直ちに流れないおそれがあります。]
17. 混注部にコネクタを接続する場合は、過度な締め付けをしないでください。[コネクタが外れなくなる又はコネクタが破損し、接続部からの液漏れ、空気混入が発生するおそれがあります。]
18. 開閉器(クランプ)を閉じる場合は、チューブが確実に閉塞したことを確認してください。[開閉器(クランプ)内でチューブがずれ、閉塞されないおそれがあります。]

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- *○本品を血液の体外循環療法(透析等)に使用しないこと。また、混注部から輸血および血液製剤の投与はしないこと。[混注部(ディスク弁)の潤滑性が失われ、脱着時に脱落することにより血液漏れ、薬液漏れが発生するおそれがある。]
- 使用は一回限りとし、再滅菌、再使用はしないこと。
- 使用期限の過ぎたものは使用しないこと。
- 包装開封後、すぐに使用すること。
- 併用する医薬品及び医療機器の添付文書を確認後、それぞれの使用方法、使用上の注意に従って使用すること。

- 万一、包装が破損や汚損している場合や、製品に破損等の異常が認められる場合は使用しないこと。
- 使用中は本品の破損、接続部の緩み、空気混入、液漏れ及び詰まり等について、定期的に確認すること。
- プライミング後は直ちに薬液を投与すること。[薬液が汚染されるおそれがある。]
- チューブが折り曲げられたり、引っ張られた状態で使用しないこと。
- チューブを鉗子等でつまんで傷をつけないように、更に、はさみ等の鋭利なもので傷をつけないように注意すること。[液漏れ、空気混入や破損が発生するおそれがある。]
- チューブと硬質部材（コネクタ等）との接続部付近で開閉器（クランプ）を操作しないこと。[チューブが開閉器（クランプ）に噛みこまれ、破損するおそれがある。]
- 本品又は接続された輸液ライン等が身体の下等に挟まれないよう注意すること。[閉塞、部品の破損等のおそれがある。]
- コネクタを接続する場合は、過度な締め付けをしないこと。[コネクタが外れなくなる又はコネクタが破損するおそれがある。]
- 脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、ひび割れに注意すること。[薬液によりコネクタにひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、空気混入等のおそれがある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じるおそれがある。なお、ライン交換時の締め直し、過度な締め付け及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となる。]
- ひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。
- 低温下の衝撃で破損するおそれがあるため、低温時の取扱いには注意すること。
- 使用後は感染防止に留意し、安全な方法で廃棄すること。

2. 相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）

<併用注意（併用に注意すること）>

- 本品の混注部への接続はオスルアーテーパーのコネクタ又はシリンジを使用し、注射針やその他のコネクタは使用しないこと。[混注部の破損、外れ、混注部からの液漏れが発生するおそれがある。]
- 混注部に、輸液セット、延長チューブ、シリンジ等（以下輸液セット等）という。）を接続する際、輸液セット等の先端形状によっては流液路が開通しない場合があるので、医薬品が注入できない場合は、別の製品に交換すること。特に微量注入を行う場合には、十分に注意すること。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

1. 貯蔵・保管方法

水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間・使用の期限

箱の使用期限欄を参照のこと（自己認証による）。

【包装】

20本／箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売（お問い合わせ先）

ニプロ株式会社

大阪市北区本庄西3丁目9番3号

電話番号：06-6372-2331（代表）

製造（輸入先）

ニプロ・タイランド・コーポレーション

[Nipro (Thailand) Corporation Limited]

タイ王国

[Thailand]



ニプロ株式会社